



所属会派：清風クラブ
環境厚生常任委員会委員長

いつも笑顔で やる気、根気、元気!

平成27年4月26日執行、平塚市議会議員選挙において2564票をもって2期目の当選をさせていただきました。

初当選のあと、平塚市議会初めての保守系女性議員という看板を背負った自分の立場を知り、プレッシャーに負けそうにもなりました。しかし、一市民として、一有権者として声挙げ、行動していくことを肝に銘じ、「このまちに住んで良かった」とひとりでも多くの方が感じられるまちづくりを更に進めてまいります。

平成27年6月2日～6月25日、6月市議会定例会が開催されました。質問時間25分の質疑応答の一部を抜粋してご報告します。ひらつか議会だより第193号（H27.8.7発行）、また、会議録と併せてご一読願います。

1. 自転車の利用環境について

問 今年3月、平塚市自転車利用環境推進計画を策定し、更なる自転車の利用しやすい環境づくりに向け積極的に働きかけています。平塚駅から離れた地域生活圏の連絡機能を高めるため、地域生活圏を軸とした自転車通行レーンの整備が必要と考えるが、本市の見解を伺う。

交通政策担当部長 推進計画では、平塚駅から離れた「地域生活圏における自転車ネットワーク」も必要と考え、「日常のネットワーク」の一つとして位置付けています。地域生活圏の中心となる日常必要な商業施設や公共公益施設等への連絡機能を高めることで、その効果を発揮するものであることから、地域生活圏のまちづくりと合わせ、個別に検討していきます。

問 サイクル&バスライドについて、バス会社とどういった協議をしているのか伺う。

交通政策担当部長 バス利用に不便な地域の解消、並びにバスの利用圏域拡大ということを目的に取り組んでいる。バス事業者とわれわれ平塚市、この中の費用分担も含めた役割分担をしっかりと整理していこうと協議を進めている。

問 中学生や高校生の自転車利用者が交通事故の加害者や被害者に占める割合は高いと考えている。こういった中学・高校生世代を取り込んだ啓発活動が必要と考えるが見解を伺う。

交通政策担当部長 交通安全運動は押し付けるのではなく、意識改革だと思う。そういう中で中学生高校生など含めて、教えるのではなく、最終的にはそういう意識になってもらうことが必要であると思う。中高生がチラシを配ったりすることは、その一つのやり方だと考えている。いろいろな機会を見つけながら取り組んでいるところであり、引き続きさまざまな啓発の方法を試してみたいと考えている。

2. 平塚市産業振興計画アクションプラン

問 「買い物が楽しめる商店街」プランにおいて地域商店街の担う役割について、本市の見解を伺う。

産業振興部長 地域商店街が持つ第一の役割は、品物を買ったり飲食をしたりするなど、地域住民の生活の場であるが、人と人とのふれあいが希薄になっている現代では、地域社会に密着したコミュニティの担い手としての機能も求められている。そのため、地域のニーズに耳を傾け、取組むことで、地域に頼りにされ、必要とされる商店街となることが重要であると考えている。

問 今、世代によってスーパーで買い物するのが当たり前になっている消費者が多くなっており、どうして個人商店の魅力がなかなか伝わらないのかと考える。「まちゼミ」の開催をぜひ中心商店街だけではなくて、いろいろな地域に広めていただきたいと思う。その取り組みについて伺う。

産業振興部長 「まちゼミ」の取り組みについては、中心商店街に限定したわけではなく、市内には様々な特徴的なお店もあるので、そういったところを順次選んで、それを今度は線でつなげてツアー等を働きかけたいと思う。また、地域ごとに



2015年8月、岡山県笠岡市「道の駅整備による地域活性化」を視察。

も特徴があるので、地域性も生かした中で、まちゼミ、買い物ツアー的な部分で発展させていきたいと考えている。

問 日産車体跡地の大型商業施設には240店舗ほどの出店予定がある。これらの240店舗と市内の既存商店をどうやってつなげていくのか見解を伺う。

産業振興部長 240店舗の枠にどういったお店が入るかは、まだ決まっていない状況である。今後、どういった取り組みができるかという部分では、事業運営者との相談をしながら対応を考えていきたい。

問 商店のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化についてはベンチの設置等をされたり、出入り口の段差の解消に努められたりしているようだが、実際に平塚市には盲学校や聾学校等の学校施設もある。1人でも多くの障がいを抱えた方々が、まちへ出かけることが活性化につながると思う。そういった方たちと一緒に取り込んだまちづくり、商店づくりが必要と考えるが見解を伺う。

産業振興部長 障がい者等を巻き込んだ商店街づくりという部分では、本市のバリアフリー基本構想の要素も取り入れながら、実際に各店舗の方でバリアフリー化・ユニバーサルデザイン化に対応、促進するための店舗改修の制度の制度設計であるとか、そういったものも踏まえ検討している。実際に進めて行くためには当然ツールも必要であるので、そういった部分で今進めている。

問 農業委員として各市・他市他県に伺って、農協や自治体の農水産課と女性就労者が様々な取り組みについて視察をしました。そういった中で、いろいろな形で平塚市の農業を前へ進める、



笠岡駅には「道の駅」の周囲に咲くひまわりをイメージした自動販売機が設置されていました。

地産地消でその消費量を増やすということが非常に大切だと思います。平塚市健康増進計画では、成人一人当たり1日350g以上の野菜を摂取することを推奨されているが、実に21パーセントの市民しかこれを達成していない。そういったところもPRとして使えると思う。是非、他の部とも足並みをそろえて、地産地消を前に進める必要があると思うが、見解を伺う。

産業振興部長 消費者に平塚産の野菜をたくさん消費していただくことは農業の理解促進という部分では必要であり、平塚でつくったものを市民の方に選んでいただく、さらに市外の人たちにもひらつかブランドを選んでもらえるような取り組みが重要であると考えている。いろいろな手段、媒体を使って周知・PRという部分も含めて取り組んでいきたいと思っている。

3. 英語教育と活用の場の創出

問 グローバル人材の育成を声高に耳にする社会情勢の中で、文部科学省でも英語教育の推進について積極的に働きかけている。日本語同様、ことばは時代と共に変化し、生きているものと考えられる。児童・生徒の身につけた「英語」をどう活かし、「話す」ための取り組みはどのようにされているのか伺う。

教育指導担当部長 小学校では、ただ英語を発していればいいというのではなく、心を動かしながら言葉を使いたくなるような場面をつくりだす工夫をして、日々の授業を行うよう努めている。また、外国人英語指導者と触れ合うことは、「伝えたい、わかってほしい」という思いがある子どもたちにとって、その気持ちを伝えるために言葉があるということを感じさせる絶好の機会である。中学校では、与えられた語句や文を繰り返すことができるだけでなく、自分の考えなどを話すことを重視しているので、「聞くこと」・「話すこと」「読むこと」・「書くこと」の4技能を用いたコミュニケーションにおける自己表現の場を随所に設定して授業を行っている。さらに、習得し

た英語を活用・発信させる場として、本市では、61回の歴史がある中学校英語祭を開催し、生徒が自分の夢や体験をスピーチしたり、英語劇を発表したりしている。また、ローレンス市青少年受入事業における中学校訪問で、日本文化や学校生活を紹介し、お互いに交流を深める時間がある。こうした活動がきっかけとなり、英語との関わりを広げて、「英語を使って何かができる」という実感を持たせられるようにしている。

問 英語を心から伝えたいような環境づくりのためには、地元平塚を教材に取り入れて、ディスカッション等ができる力をつけていく教育も必要かと思うが、見解を伺う。

教育指導担当部長 子供たちに英語は覚えるもの、基本的なセンテンスを覚えるものではなくて、それを自分の考えや思い、そして平塚のことなど伝えたい、使うものだという気持ちを持ってもらいたい。またそういう力をつけていきたいと思っている。コミュニケーションとは伝わったという体験をたくさん重ねていくということも重要であると思う。教育委員会としても、授業改善や教員の授業力向上のために研修や研究会を通して学校支援をおこない、中学3年を卒業する時には3級が取得できることを目指して取り組んでまいりたい。



2015年8月、広島県広島市「ひろしま型カリキュラムの実施」
「読み・書き・計算」はもとより、「言語と数理の運用能力」を身につけ思考力、判断力、表現力の向上を図り、日常生活の中で活用できる能力を育成する取り組みを視察しました。

4. 図書館運営について

読書は生涯を通じてあらゆる人に生きること、知ることの喜びを与え、心を豊かにするものであり、公立図書館は広く市民に、学ぶ場として寄与する大切な場所であると考えている。

問 公立図書館は、本やCD、DVDなどを借りる、また知りたい情報を得るための役割に加えて、ゆっくり読書を楽しむ場として、小さなお子さんから高齢者まで、多様な市民の居場所としての働きも持っている。前回までの議会でも不登校の児童・生徒の存在について触れさせていただいた。学校には行けないが学習したいと考えている児童・生徒がいる。フリースクールのような居場所の存在がない本市であるので、例えば中央図書館3階の参考室の一部に児童・生徒専用スペースが設けられれば、自宅以外の居場所のひとつとして外出の機会が創出されるのではないかと考えるが、見解を伺う。

社会教育部長 現在、図書館では、フリースクールのような常時受け入れるためのスペースを確保することができないため、不登校の児童・生徒の居場所として中央図書館3階の参考室等を活用

することは難しいと考えている。しかし、小学生は中央図書館のこども室を自由に使っていただけており、同様に中学生や高校生にも気軽に図書館を使えるスペースが必要であると考えている。そこで、夏休みや冬休みの期間限定ではあるが、中学生・高校生の専用スペースとして、図書館の資料を使って調べ物や宿題などをできる場所として、今年の夏休みから中央図書館の3階にある会議室の開放を実施する予定である。

問 県内の公立図書館での指定管理者制度の導入状況を踏まえ、今後の図書館運営について本市の見解を伺う。

社会教育部長 神奈川県図書館協会発行の「2014年版神奈川の図書館」によれば、県下の公立図書館75館のうち、指定管理者制度を導入している図書館が4館、また、窓口業務等を外部委託している図書館は21館となっており、全体の三分の一は何らかの形でアウトソーシングによる運営方法を取り入れている。本市では、他市の状況などを調査し、市民サービスや経費の面などから、どのようなものが本市にとって望ましい運営方法なのか調査しているところである。

2015年秋以降の予定

- 10月 7～9日 第77回全国都市問題会議（長野）
- 10月11日 湘南ひらつか囲碁まつり ※1000面打ち大会
- 10月15日 河野太郎と21世紀の日本を語る2015（東京）
- 10月19日 乳がん・子宮頸がん検診促進全国大会（東京）
- 10月29日 第11回地域医療政策セミナー
- 11月13日 私立幼稚園父母との交流会
湘南地方市議会議員研修会（平塚市）

※平塚市内の市民活動団体が主催する講演会・学習会にも参加させていただいています。
お奨めの講演会等がありましたら、是非お声掛け下さい。

最後に

「佐藤たかこ議員の声が聞きたい！」というお声掛けをいただければ参上します。

市民と議員、共に住民・生活者としての意見を交換させていただければ幸いです。



2014年11月15日、八幡自治会館にて。

とてもアナログな佐藤たかこが、ブログやホームページを展開しています。

「佐藤たかこ 平塚」で検索し、ぜひ、ご覧ください！

佐藤たかこ 平塚

検索



ご意見・ご質問、応援メッセージは、E-mail : takatan.kike@md.scn-net.ne.jp

又はファックス 0463-21-7600 にてお知らせください。